
ヒトカタ

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒトカタ

【Nコード】

N3376J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

これを読まなきゃ損ですよ！

パソコンや携帯電話で文書を打つとき、大抵は漢字変換機能を使いますよね。変換キーを一度押すと文章の流れに合った漢字に変換され、もう一度押すと読みが同じの漢字が多数出てきます。便利な機能だと思います。

でも時にそれが、非日常の扉を開くキツカケになるんです。僕の話聞いてください。

その日僕は、ホラー小説を書いていたんです。

はい。実は僕、趣味で小説を書いているんです。登録制の、アマチュア専用の小説投稿サイトがあって、その編集ページを利用しています。

夏が近いでしょ。だからホラーに挑戦してみたんです。

最初はなんもなかったんですよ。なんも。ですけど書き進めるうちに、背中が痛いような重いような変な感覚になってきたんです。胸のあたりも少し寒いような……。

長時間作業して体が凝ったのかなとも思ったんですけど、やっぱりなんか違うんですよ。なんだろうと不審に感じながらも、ま、気のせいだろうと。僕は物語を展開させていきました。

しばらく経ってから……、今度は体じゃなくて画面が変なんですよ。ボタンをカチャカチャ押してるのに、表示されるテンポがとにかく遅い。まるでゆっくり這うように文字が流れてゆく。

手荒に使ってもいないのに、なんだろう。機械が古くなっちゃったかな。

そんな風に心配しながらも文書を進めて、僕は変換キーを押したんです。そうしたら。

僕ね、普通の単語を入れてたんです。入れてたのにね、なんて変換されてたと思います？

ヒトカタ。

漢字変換されるべき部分が、片仮名でヒトカタって変換されたんです。ひとかたなんて打ってないのに。

おかしいなと首を傾げてながら削除してまた入力しましたよ。でもやっぱり、

ヒトカタ。

……変でしょ。

バグだと思ってね。僕はとりあえずそこで作業をいったんやめましたよ。

それから翌日。

またヒトカタって変換されるんですよ。でもメール機能や他のサイトでは変換されなくてね。

あ、この投稿サイトだけのバグなんだって、そこでようやく気づいたんです。それで僕すぐに、サイトにある質問用掲示板を開いてみたんです。同じバグで悩んでいる人いかなかった。

でも全然そんな書き込みなくて。

仕方なく僕は「漢字変換するとヒトカタになる」ってタイトルで書き込みして、夜まで待ったんです。したら、返答が来ました。でもそれ掲示板じゃなくて、サイト登録者各個人に与えられるメッセージ機能に came ました。掲示板にはまったく回答ナシ。

変だなあと思いながら僕、メッセージを広げってみましたよ。そしてらね、サイトでは古株の、最近仲良しになったサイト登録者さんからのものでした。なんて書いてたと思います？

「すぐに小説をアップして下さい。作成途中で良いですから」

意味、分かんないでしょ。

だから僕、「なんでですか？」って返したんです。それでまあ、返信来るのも時間かかるかなあと思って、掲示板覗いたんですよ。そしたら、書き込みがあって。

「私も二、三日前から同じバグが起こって困ってます」、と。

なんだ自分以外にもいるんじゃない。そう安心しながら、僕は書き込みした人の名前を知らなかったんで、登録者一覧表から探してみたいです。

でも、ないんです。退会してたんですよ。

フツー、質問掲示板に書き込みしてからすぐ退会するか？僕は呆れましたよ。だってそうでしょ、それってまるで、さあ自殺するぞって寸前に友達に電話かけて遊ぶ約束を結ぶようなもんでしょ。おかしいなあ、って。

僕ようやくアレ？　ってなりました。

なんか違う。なんか妙だ。なんか……嫌な感じがする。

普通じゃない。

そっからは速攻でした。

僕、古株の方のメッセージに従って未完の短編作品をすぐにアップしたんです。めちゃくちゃ早かったですよ。そして短編が無事にアップされたか確認しました。

ヒトカタ。

僕の短編のタイトルは、全く違うものになっていました。

ヒトカタ。

僕はそんなタイトル、入力していません。

啞然としながら、僕は作品に目を通しました。そしたら作品は途中で終わっていて、文章の最後はヒトカタでした。

僕以外にもいるんじゃないか、そう思い調べましたら、何作品かありました。ヒトカタ、というタイトルの、途中で切れた作品が。

そのとき、ピンと来たんです。

作品を登録したから、僕は“消されなかった”んじゃないかなって。

ようやくメッセージの返信が来て、そこにはやはりというか、僕の予想通りの文章が載っていました。

信じてもらえないかもしれないけれど、

漢字変換がヒトカタになったら、すぐに編集中の作品をアップする。完結してなくていい。

しないと何故か二、三日で退会してる。

ヒトカタになるメル友がいたけど、メールも届かなくなっていて、連絡が未だにつかない。管理人は隠してるけど実は退会した人は何人もいる。

作品を投稿すれば分かる。タイトルがヒトカタになるから。信じて下さい。

二通目が来てました。僕はそれにも目を通して。

作品を投稿したんですね、ホッとしました！ 分かりましたよね。
アレが。

掲示板に書き込みした人、退会されていましたね……。
なぜ作品をアップすれば大丈夫なのか……これは私の周りでの推測なんですけど、多分、作品を通して誰かにヒトカタを移すんじゃないかっていう話になっています。要するに、読者さんの、読んだ誰かに感染させるんです。

きっとどこかでヒトカタを読まれてしまったんじゃないでしょうか？ だから呼んでしまったんだと思います。

私も実はなったことがあります。だけど投稿したおかげで、あれ以来なっていないません！ だから安心して下さい。

投稿した作品を読まなければ大丈夫ですから！

それにしてもヒトカタでしたね。

ゆるしてください。ぼくはつみをおかしました。ごめんなさい。もしあなたにアレがいていたらごめんなさい。ぼくはたいかいしたくないです。

これ をよませて ごめんなさい。ゆるしてください。あなたがせかいからたいかいしないことをね がっています。

もしアレがいていたらとうろくしてさくひんをかいってください。

そうしたら らたすかります。ぼくはだすかりました。たぶんあなたのおかげでたすかります。ありがとうございます いました。

ありがとうございました。

(後書き)

ヒ

ト

カ

タ

2007年ごろ製作。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3376j/>

ヒトカタ

2010年11月16日08時35分発行